

共同実験の概要

1. 目的

BIM 活用における「専門性の壁」という課題の解決に向け、ドコモが開発した対話型 AI エージェント技術の有効性と実用性を検証します。建物維持管理業務における本技術のサービス性評価を通じて、社会実装に向けた課題の洗い出しと事業性の評価を行います。

2. 共同実験概要

NTT ファシリティーズが管理する BIM データと建物の維持管理業務シナリオを用いて、非専門家でもチャットでの自然言語による対話だけで必要な情報を取得・活用できるかを検証します。例えば、施設の管理者が AI に「A 棟 3 階の空調フィルターの交換履歴を教えて」「耐用年数が近い設備をリストアップして」といった質問をし、その応答精度や速度、操作性（UX）を評価します。得られた結果は、今後のシステム性能改善や機能強化に反映します。

3. 各社の役割

ドコモ	・実証実験の総括 ・対話型 AI エージェントの開発および評価環境の構築 ・既存システムとの統合に向けた開発
NTT ファシリティーズ	・既存システムとの統合に向けた開発 ・実証実験フィールド（BIM データ等）の提供 ・システムの評価、フィードバック